

令和4年度 自由研究作品カード

1年

研究分野 (教科)	国語
研究テーマ	罵倒語の「たこ」について
研究テーマ設定の理由	好きな小説の中に罵倒語の「たこ」が出てきた。そして生物の蛸とは関係あるのが気になったから
研究成果解説	生物としての蛸は、罵倒語の「たこ」とはあまり関係ないということがわかった。そして蛸は生物の中でかなり豆頭のい方で、太と同じくらいの賢さであるということが分かった。ちなみに罵倒語に「たこ」という言葉が使われるようになったのは、江戸時代に旗本の子ともたこ、御家人の子ともたこに対して以下と蔑んだのに、御家人の子ともたこ、と返したのが始まりらしい。

検証4

日本食文化と蛸

外国と日本での蛸の文化的違い

蛸は高たんぱくで低カロリー、またアミノ酸の一種であるタウリンが含まれており、骨や皮を処分することなく丸ごと食べられる便利な食材として、日本では古くからタコを食べる文化が根付いている、一部の外国は宗教上の理由から鱗のない魚介類は汚らしいものとされ、「デビルフィッシュ」と呼ばれ忌み嫌われていた。それゆえ、タコを食用と考える文化を持つ国は多くない。アジア圏でも日本以外では韓国やタイで食べられている程度で、収穫量が世界一の中国でも消費量は多くない。ヨーロッパでは、イタリアやスペイン、ギリシャや南フランスなどの一部で食べられる以外は、食材として目にすることはほとんどない。

日本は蛸消費量世界一

日本のタコ年間消費量は世界全体の約60%を占めるほど、タコを愛する国だ。スーパーでも気軽に買えるタコは日本の食卓ではお馴染みの食材で、タコを使った料理やレシピが日本ほど充実している国は他にない。子供の頃から慣れ親しんでいるそれが日本人にとってのタコです。

日本の蛸文化はいつから

日本では今から2000年以上前の弥生時代の遺跡からタコ壺と思われる土器も出土しており、その頃からタコ食文化が根付いていたともいわれている。



令和4年度 自由研究作品カード

1年

研究分野(教科)	国語
研究テーマ	秋田弁と富山弁と標準語
研究テーマ設定の理由	富山弁には前から興味をもっていたので秋田弁と富山弁と標準語の違いを調べてみたいと思いました。
研究成果解説	秋田弁の名詞は、語尾に「こ」とつくものが多し。富山弁の形容詞は、語尾に「し」とつくものが多し。富山弁の「いし」は、標準語の「いし」と同じことを表す。また富山弁の動詞は、語尾に「れ」とつくものが多し。「れ」がつく富山弁は、「しよ」というときに使う。秋田弁である場合は、1文字でたくさんの意味を持っている。

秋田弁と富山弁と標準語

1. テーマ設定の理由

母が富山県出身でよく富山弁を使っていたので、富山弁には前から興味を持っていました。そこで、僕が住んでいる秋田の方言と富山の方言と標準語の違いを調べてみたいと思いました。

2. 調査方法

- ・富山弁について：母から聞く、富山にいる祖母や叔母と話す、インターネットで調べる
- ・秋田弁について：父から聞く、祖母から聞く、祖父から聞く、インターネットで調べる

3. 調査内容

品詞に分けて調べた。

【名詞】

秋田弁	富山弁	標準語
ぼっこ	ねね	赤ちゃん
ばし	うそこ	うそ
いぬっこ	えんころ	犬
がっこ	こうこう	漬物
じえんこ	ぜん	お金
模造紙	がんび	模造紙 ※新潟は大洋紙
あぐと	けべす	かかと
警察官	じんだはん	警察官
おじつけこ	おつけ	みそ汁

令和4年度 自由研究作品カード

1年

研究分野 (教科)	国語
研究テーマ	映画と原作の違いから学ぶ ～今夜、世界からこの恋が消えても～
研究テーマ設定の理由	映画化することで、時刻の変化や役者さんの演技表現により原作が引き立ち、より感動したからです。
研究成果解説	改めてこの作品と向き合うことができました。原作を映画化したことで、監督の温かい役者さんへの思い、役者さんが映画に込めた思い、様々な思いを知ることができました。この扉を開くことで、映画という作品には、携わった人のそれぞれの思いが溢れていると感じることができました。原作があり、その映画は、表現を変え、ことで人それぞれの心に染み渡り、たくさんの人に感動を与えました。

③ 原作と映画の時系列の違い、その効果

・原作

プロローグ		真織の日記	真織の日記	真織の日記	未来?	
-------	--	-------	-------	-------	-----	--

・映画

現在	過去	真織の日記	過去	真織の日記	過去	真織の日記	過去	現在
----	----	-------	----	-------	----	-------	----	----

※色は心情の変化です

効果

・原作を読んだから映画を見た人

- ・小説とは手に違、感動を味わうことができる。
- ・原作と映画の出来事の順番が違っていることにより、役者さんのセリフに重みを感じる。

〈例〉透と早苗の会話

透「僕たちのことは大丈夫だから心配しないで」

早苗「それまでお父さんのこと、頼んでわね」

「元気にしてわね。(体調に気をつけてね)」※記憶が...

→心の中「透死んじゃうのに...」(感動)

- ・原作の内容や感動を知った上で映画を見ると、映像、役者さんの演技、セリフ、全てが胸に染み渡り、涙なしでは見られないうくらい感動する。

★物語の結末を知っているも、映画での表現が観客の心を揺さぶってくる。(やはり感動)

